

## モデル校用

### 【「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書】

モデル校名 東京都八王子市立七国中学校

#### ○学校の概要（平成15年4月現在）

八王子市立七国中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	0	0	0	1	7
生徒数	36	0	0	0	36	

1. 本年度当初、本校が抱えていた「総合的な学習の時間」の課題について。
  - ・本年度開校した本校では、小・中学校の連携を視野に入れた取り組みを考えていたが、小学校の「総合的な学習の時間」の取り組み状況や生徒の実態が把握できず、教師個々のこれまでの経験をもとに年間の計画を立てることになった（小学校も平成15年度同時開設）。そのため、小学校4・5・6年生と中学校1年生での地域散策（オリエンテーション）の位置付けについて、小学校では特別活動として考え、中学校では「総合的な学習の時間」の導入部分として考えているなど、「総合的な学習」のとらえ方の違いを感じた。また、「総合的な学習の時間」について、小・中学校の連携にあたっては、十分な話し合い、相互理解が必要であると考えた。
2. モデル地域としての研究主題を、各学校でどのように受け止め、どのような目標設定をしたのか。
  - ・小・中学校の連携については、本校として取り組みを模索していたところであったので、大変よい機会を与えて頂いたと考えた。加えて、高等学校等との連携をも視野に入れる点は、子どもたちの成長の過程を12年間という長い目で見、現在の目標から将来の目標を考えていくために校種の違いから多くの示唆・提言を期待できると考えた。
  - ・「総合的な学習の時間」の指導計画における評価の観点で、小・中・高で一貫してとらえていく項目を設定した。
  - ・小・中、中・高などの児童・生徒の交流、教師間の交流を促進することとした。
3. 平成15年度の各学校の取組内容と、その結果どのような成果と課題が見られたのか。
  - ・中・高の連携を中心に具体的な指導計画を作成し、実践を進めている。成果として、パソコンの操作や情報伝達の多様な在り方を、学ぶことができた。また、表現方法や発表能力についても各グループ・個人の力量が高まりつつある。特に、高校生から指導されることを通して、パソコンのスキルを身に付けると共に、受け手により分かりやすく伝える方法を工夫している。
  - ・課題は、高校生が来校するための日程調整、小学校との時間割調整など、時間的なすりあわせの他、身に付けさせたい力が小・中・高で接続発展した評価規準の作成などがある。
4. 本年度の課題を踏まえて、平成16年度どのような取組を行う予定か。
  - ・「情報」を全体計画を貫く核とし、教科や道徳などにおいても、情報発信・コミュニケーションを視点とした学習を行っていく。総合的な学習の時間では、情報収集能力や収集した情報を活用して発表する能力を身に付ける過程で、ものの考え方・生き方を育てていく予定である。

●生徒の実態  
 ・内容や方法が明確な学習に積極的に取り組む生徒が多い。  
 ・自ら課題を持って活動する生徒が少ない。  
 ●教師の願い  
 ・生徒自身が興味・関心を持って、自ら設定した課題に取り組む探究活動が展開できる力を育てる。

●学校の教育目標  
 私たちは宇宙船地球号の一員であり、過去の遺産を継承し、未来を切り開く使命を自覚し、地球の発展・繁栄のために活躍することを目指す。そのために、自己を知り、社会を知り、地球を知り、明日への原動力となる基礎的・基本的な力をほぐくむことをねらいとする。(実践目標) 元氣・根氣・勇氣・共生

○総合的な学習の時間のねらい(学習指導要領)  
 (1)自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること  
 (2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること  
 (3)各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。

全校での共通理解事項

◎学校全体での取り組み  
 ・地域理解・未来を見据えるの生き方学習にかかわる活動を全学年で実施する。  
 ・情報教育を「総合的な学習」のキーワードとして用いる。  
 ○学年での取り組み  
 ・学年で協力して、学校の全体計画に沿って課題を設定し取り組む。  
 ○学級としての取り組み  
 ・学級の生徒の実態や興味・関心に応じて追究内容を弾力的に計画する。

本校の総合的な学習の目標

○問題解決学習や体験的な学習を通して、人とかかわり、地域の自然、文化などを大切にその態度を育てるとともに、「情報」を視点とした学習を行うことにより、情報収集能力や収集した情報を活用して発表する力を身につける。

学年の目標

1年	2年	3年
・生活の中から自分が興味を持って取り組める課題を選択し、課題追究のために目的にあった方法で調べることができる。 ・情報収集の方法を知り、適切なものを選択することができる。	・自ら課題を見だし、課題追究のために様々な方法を考え、適切なものを取り入れることができる。 ・多くの情報を収集し、課題追究に必要なものを取り入れることができる。	・自ら価値ある課題を見出し、自分の学習内容にあった課題追究の方法を考え、創り出すことができる。 ・課題追究に必要な情報を収集し、それらを整理・折りしたり、新たに情報を得たりすることができる。

めざす授業像

・体験的な活動を重視しその中で問題解決活動が経験できるように意図する。  
 ・パソコンを道具として使いこなし、インターネットやプレゼンテーションソフトも情報収集、情報発信の一つの方法として情報処理の技術を身につけさせる。  
 ・小学生・高校生・地域の方々と直接的なかかわりを大切にする。  
 ・関係施設や民間企業、保護者など、地域の教育力を最大限活用する。

関係機関との連携

・地域学校(七国小学校・都立第二商業高等学校)関係者  
 ・市役所環境部  
 ・リサイクルセンター関係者  
 ・ゴミ処理場とその関連施設関係者  
 ・処理場関係者  
 ・八王子市社会福祉関係者  
 ・都市整備公園関係者  
 ・みなみ野、七国商業関係者  
 ・郷土資料館関係者  
 ・老人会  
 ・町内会  
 ・学校評議員  
 ・保護者

内容・単元

	1年	2年	3年
前期	(自然・地域社会との共生) 地域を知ろう(情報) パソコン・図書室の利用(国際理解) 留学生の話聞く会	(自然・地域との共生) 地域マップの作成(環境) ビオトープ作り(国際理解) MTP テレビ会議 パートナー校とのメールのやりとり	(伝統文化) 京都・奈良(将来とのふれあい) 高校生、大学生に話を聞く会
後期	(社会の一員として生きる) 自分調べ・職業調べ  働く人の話を聞く会  (自己表現) 弁論発表会 (地域との共生) 学校案内作り	(自己表現) 弁論発表会  (社会の一員として生きる) 職業体験	(自己表現) 弁論発表会  (生き方学習) 上級学校訪問  (自己実現) 将来をみつめた進路選択

教科との関連(重点のみ)

育てたい資質・能力の関連  
 ・教科における固有の目標との関連を図り、その知識を生かした学習活動を行う。  
 ・生徒全員が身につけるべき基礎・基本の学力の定着。  
 ・創造力、実践力をほぐくむ。  
 ・少人数制指導による基礎基本の学力の定着。  
 ・課題探究学習・体験学習・創造的学習の実施。  
 【国語科】  
 ・自分の立場や考えを相手にわかってもらえる文章を書く力をつけるとともに相手の意図を考えながら聞き取ろうとする態度を育てる。  
 【英語科】  
 ・諸外国の学校や様子について興味・関心を持ち理解する態度を育てる。コンピュータを通して課題を追究する。

特別活動・学校行事

望ましい集団生活を通して、心身の発達と個性の伸長を図るとり、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。  
 ・望ましい集団活動の育成  
 ・個性の伸長  
 ・社会的な資質の育成  
 ・自主的・実践的な態度の育成  
 ・人間としての生き方の自覚  
 ・運動会  
 ・学習発表会  
 ・合唱祭  
 ・移動教室  
 ・修学旅行  
 ・進路面談  
 ・三者面談

観点	1年	2年	3年
かかわり	・身近な地域の中から、調べたい事柄を選択することができる。 ・課題を選択するために、仲間と積極的に交流することができる。	・体験や事物と関わる中で、課題を発見することができる。 ・自分が発見した課題のより良い解決方法を考えることができる。	・学習したことや体験したことから、課題を発見し、自分なりのアプローチでよりよく解決しようとする。 ・様々な人や事物との関わりという広い視野に立った、課題解決ができる。
表現力・プレゼン能力	・課題追究のために、コンピュータなどを利用し、情報を収集することができる。 ・収集した情報を聞き手や読み手に、明確に伝えるようにまとめることができる。	・自分なりに考えた課題解決方法を読み手や聞き手に伝えるように、コンピュータなどを利用しまとめることができる。 ・相手の立場に合わせた資料まとめる手段を適切に選択することができる。	・自分の考えや解決方法を読み手や聞き手の興味を喚起するような方法で、コンピュータなどの利用しまとめることができる。
主体的・創造的な態度	・身近にある課題から自分の調べたいものを選択し、興味を持って調べる。 ・調べたい事柄に対し、現地にいったり、周囲の人に聞いたりする。	・自ら発見した課題に対し、積極的に解決の方法を考える。 ・自分なりの解決の方法や調査方法をとることができる。	・自ら発見した課題に向けて、よりよい解決方法を考える。 ・自分の調べたいことに応じて、さまざまな調査方法を工夫することができる。
生き方を考える力	・自然と自分、社会と自分との関わりを考える。 ・異年齢層との関わりの中で、自らの役割や責任を考える。 ・自らの将来を思い描き、現在取り組む課題を考える。	・自分を取り巻く環境や様々な人々の生き方を学ぼうとする。 ・自らの将来と現在の生活を関連付けて考え、現実的な課題に取り組むことができる。	・過去の遺産や人々の知恵から学び、現在の生活に生かそうとする。 ・他者との関わりを視野に入れ、自らの将来と今後の社会を考えることができる。

道徳との関連(主なもの)

育てたい資質・能力の関連  
 道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。  
 ・自分の考えをしっかりともち、かつ他者から謙虚な姿勢で学ぶことのできる広い心を持った生徒  
 ・相手の立場や気持ちを思いやり、理解することができる生徒。  
 ・地域社会の一員として、また世界市民としての自覚を持ち、地球規模で物事を考え、地域レベルで行動できる生徒。  
 【道徳の内容項目との関連】  
 ・自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。(1-(5))  
 ・それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつたことを理解して、謙虚に他に学ぶ広い心を持つ。(2-(5))  
 ・地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛し、また国際的視野に立つて世界の平和に貢献する。(4-(8)4-(10))